

教育研究業績書

2017年10月20日

所属：薬学科

資格：講師

氏名：西村 奏咲

研究分野	研究内容のキーワード
薬学教育	初年次教育、薬学教育学
学位	最終学歴
修士(薬科学)	武庫川女子大学大学院 薬科学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 基礎学力強化教育の実施	2017年～現在	ルーブリックの導入 「講義」、「知識整理」、「課題」、「復習」の項目ごとに観点、評価基準、尺度等を明示した。学生自身にパフォーマンスを評価させることで自身の立ち位置を自覚させ、取り組むべき課題を明確にし、学習意欲を向上させた。
2. 総合演習Ⅱ（調査研究対象学生の補習）の実施	2016年4月～現在	本学における過去のデータから国家試験合格が危惧される6年次生に対して、特別授業を実施した。総合演習Ⅱでの講義内容を補完する形式で、有機化学の基礎的内容に関する知識の再確認を行った。少人数であるため、双方向で講義を進めた。
3. 総合演習Ⅰの実施	2016年4月～現在	CBT対策にとどまらず、国家試験対策を意識した演習講義を実施した。演習日の翌週に確認試験を実施し、正答率80%未満の学生には再試験の受験を促した。
4. 基礎学力強化教育の実施	2015年4月～現在	ポートフォリオの導入 学生自身に一週間ごとの行動様式を記入させることで、学習面だけでなく生活面でのアドバイスも行った。学生の達成感や自尊心、または自己効力感を高め、次の課題を明らかにして自身の学習活動をコントロールするためのメタ認知を育てることを意図した。
5. 演習講義の実施	2015年4月～現在	履修済みの内容に関して事前に宿題を課し、4～5人ごとのグループで討論しながらグループごとの解答を作成させた。発言の少ない学生には発言を促すようグループリーダーに指示し、全員が討議に参加することを義務付けた。質疑があった場合は必要に応じて問題解決のヒントを与えて誘導した。解答はその場で採点し、点数の低かった問題に関して全体にフィードバックを行った。
6. 口頭試問による知識の確認	2014年9月～現在	2年次生を対象とした実習科目において、口頭試問やグループ演習を通して、問題解決能力を養わせた。また、知識に裏付けられた技能が習得できたか否かを口頭試問により評価した。
7. 基礎学力強化教育の実施	2014年9月～現在	毎講義ごとにコミュニケーションペーパーで学生の意見・要望を抽出し、講義内容の質問についてはクラス全体にフィードバックした。定期的に宿題の提出を課し、提出物は添削後、各学生への個別のコメントを付与して返却することで、学生の学習意欲の向上を図った。一週間ごとの勉強計画表を作成させ、本科目だけでなく他科目の学習状況等も把握した上で指導を行った。また、今週の反省をさせた後に次週の目標を立てさせることで、PDCAサイクルを意識して目標を達成させる習慣付けを行った。
8. 基礎学力強化教育の実施	2014年4月～現在	学習習慣の習得による学力向上を目的とした、少人数（約15名）・双方向型の基礎学力強化教育を実施した。インプットだけでなくアウトプット（学生同士の教え合いや教員との討論）を重視した講義を実施することで、学生の学習へのモチベーションを向上させた。毎講義開始10分程度で前回講義内容の確認試験を実施し、その後15分程度で正答率の低かった問題を中心にフィードバックを行った。また、結果が芳しくない学生に対しては、面談などの個別指導を行った。知識の整理や復習習慣を定着させるために、講義内容に関するノートの整理および提出を義務付け、毎講義ごとに全学生のノートをcheckし、返却した。
9. 初年次教育の一環としての「朝学」、成績下位者対策の一環としての「学びコンシェルジュ」	2010年9月～2014年3月	朝学：主に1～2年次の再履修生が対象。毎朝15分間、各担当教員のオフィスで学習してから講義に参加することで、講義出席率の向上、予習・復習による学習の効率化、各担当教員とのコミュニケーションの構築などを主目的とする。 学びコンシェルジュ：再履修生や低習熟度学生に対して、低学年次開講科目において個別教員制度を導入することで、各学生の参加状況および学習の進捗状況を詳細に把握した。
10. 講義ビデオのインターネット上での公開	2010年4月1日～2014年3月	学外からも24時間閲覧することが可能であり、講義中での理解が不十分であった内容の確認等の復習効率化を図

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
11. CBT/薬剤師国家試験対策に関連したカリキュラムの策定	2010年4月～2014年3月	つた。 過去に実施してきた4年次生を対象としたCBT対策、6年次生を対象とした薬学特別演習試験（卒業試験）および薬剤師国家試験対策を年度ごとに総括し、その反省点・改善点を踏まえて翌年度以降のカリキュラムの策定を行った。
12. 薬剤師国家試験対策予備校における教育経験	2009年4月～2010年3月	対象人数および対象者の学力レベルに合わせて講義進度や速度、講義手法を適宜変更することで、学生の学習意欲を引き出す講義手法を確立した。
2 作成した教科書、教材		
1. 調査研究班学生対象の復習授業 プレテスト・ポストテスト	2017年4月～現在	本学の6年次調査研究班の学生を対象に、プレテストで学生の理解力が不足している部分をピックアップし、その後の講義で重点的に解説を行い、ポストテストで学力の伸びを観測するための教材を作成・編集した。
2. 総合演習Ⅰ 確認試験	2016年～現在	CBT対策講義を受講した後に実施する、理解度を把握するためのCBT形式の問題を作成した。基礎的な内容を中心に出题した。
3. 5年次生 確認試験	2016年～現在	本学の5年次生が実務実習期間外に学内で定期的に行っている試験問題を作成した。物理・化学・生物・衛生領域の重点的な範囲の必須・理論問題を、学生の実習時期に合わせて3セット作成した。（2017年度以降は作成領域が物理・化学・生物・衛生・薬理に変更）
4. 有機化学Ⅱ 補助教材	2015年9月～現在	教科書と併せて確認することでより深い知識が得られるように、過去の薬剤師国家試験での出題内容を中心とした、まとめ用の補助教材を作成した。
5. 薬学基礎演習Ⅱ 有機化学Ⅱ 演習問題	2015年9月～現在	有機化学Ⅰの復習問題、有機化学Ⅱの基礎的な問題および応用問題など、学生のレベルに合わせて多岐にわたった演習問題を作成した。
6. 有機化学Ⅰ 補助教材	2015年4月～現在	高校化学とのつながりを意識し、学生が苦手意識を持たないよう、文字よりも図表を多用し、視覚的に有機化学を捉えることのできる補助教材を作成した。
7. 薬学基礎演習Ⅰ 有機化学Ⅰ 演習問題	2015年4月～現在	薬剤師国家試験の過去問題10年分および予備校の模擬試験問題から、特に重要な出題問題をピックアップし、一問一答形式になるよう編集した。
8. 有機化合物の骨格と性質Ⅰ 問題演習課題	2014年9月～現在	1年次のうちに修得すべき有機化学の基礎的な項目について、学生の理解をより深めるための問題および解答解説を作成した。（カリキュラム改定のため、2015年度以降は有機化学Ⅱとして開講）
9. 有機化合物の骨格と性質Ⅰ 確認試験	2014年9月～現在	各講義で修得すべき有機化学の基礎的な項目についての確認試験問題を、授業回数分作成した。（カリキュラム改定のため、2015年度以降は有機化学Ⅱとして開講）
10. 有機化学の基礎 問題演習課題	2014年4月～現在	講義で得た知識のアウトプットを目的とした自己学習用の問題演習課題を作成した。（カリキュラム改定のため、2015年度以降は有機化学Ⅰとして開講）
11. 有機化学の基礎 確認試験	2014年4月～現在	学生自身が講義や自習学習で得た知識が定着しているか確認することおよび教員が各学生の理解度を把握することを目的とした確認試験を授業回数分作成した。（カリキュラム改定のため、2015年度以降は有機化学Ⅰとして開講）
12. 薬剤師国家試験対策問題集	2011年8月10日(2012年度版) ：2012年4月1日, 2013年度版 ：2013年4月1日, 2014年度版 ：2014年4月1日)	5年次生に国家試験を意識させることを目的として、大学内の各領域担当者が国家試験過去問題の最重要問題を選定・改変・解説したポケットサイズの問題集を作成・編集した。
13. 第95回薬剤師国家試験過去問題集（編著）	2010年5月	第95回薬剤師国家試験の問題集の一部を作成・編集した。 。出版社名：医学アカデミー
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. CBT・国試対策教育企画委員	2017年4月～現在	
2. 高校訪問	2016年9月7日	兵庫県立宝塚西高校での進学説明会において薬学分野の紹介と模擬授業の講師を担当した。
3. 高校訪問	2015年11月	兵庫県立尼崎小田高校での進学説明会において薬学分野の紹介と模擬授業の講師を担当した。
4. 第73回WS 参加	2014年8月30日～2014年8月31日	武庫川女子大学で実施された「第73回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」に受講者として参加した。
5. 国試対策準備・運営委員	2014年4月～現在	質の高いオリジナルの試験問題を作成・採用することにより、各学生の国家試験受験資格の有無を見極めることが可能となる。 ※2015年度は「国家試験問題検討委員」、2017年度は「総合演習Ⅱ問題検討委員」に名称が変更

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
6. 薬学特別演習試験（卒業試験）問題の作成・委員運営	2011年4月～2014年3月	6年制薬剤師国家試験の出題傾向を踏まえた出題項目を、担当領域の教員に対して指定、および全問を見渡しての難易度調整のために、各教員への作問アドバイスをを行う。職位に関係なく薬学専門教員のほぼ全員が試験問題作成に携わることで、各教員に6年制薬剤師国家試験を意識させることが可能となり、各教員の通常講義内容にも反映される。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 薬剤師免許	2009年6月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 第87回WS タスクフォース	2017年7月16日～2017年7月17日	兵庫医療大学で実施された「第87回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」にタスクフォースとして参加した。
2. 平成28年度アドバンストWS タスクフォース	2017年2月19日	兵庫県薬剤師会・兵庫県病院薬剤師会が主催する平成28年度 認定実務実習指導薬剤師養成のためのアドバンストワークショップにタスクフォースとして参加した。
3. 第83回WS タスクフォース	2016年9月3日～2016年9月4日	武庫川女子大学で実施された「第83回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」にタスクフォースとして参加した。
4. 第77回WS タスクフォース	2015年5月3日～2015年5月4日	近畿大学で実施された「第77回認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップ（薬学教育者ワークショップ）in 近畿」にタスクフォースとして参加した。

4 その他		
1. 2017年度前期授業公開	2017年7月	FD推進委員会主催 薬学部代表担当
2. 「武庫川女子大学薬学部 薬学教育推進センター年報 第3号」の編集	2017年	武庫川女子大学薬学部薬学教育推進センター教員の活動・業績報告書である「武庫川女子大学薬学部 薬学教育推進センター年報 第3号」の編集を行った。
3. 武庫川女子大学薬学部 2015年度オープンキャンパス 模擬授業	2015年8月14日	題目：抗HIV薬を科目横断的に捉えよう！ 薬学の多岐に渡る科目の紹介を高校生にも理解できるレベルで行うことで、薬学に興味を持たせることを目的に行った。
4. 2015年度後期授業公開	2015年12月	FD推進委員会主催 薬学部代表担当
5. 2014年度後期授業公開	2014年12月	FD推進委員会主催 薬学部代表担当
6. 第18回FDフォーラム	2013年2月23日	学生が主体的に学ぶ力を身につけるには 学生とともにすすめるFD
7. 第11回 高大連携教育フォーラム	2013年12月6日	新しい時代を拓く高大接続の『学び』とは

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
3 学術論文				
1. 薬理学教育に対する解剖生理学領域における低習熟度学生対象教育の効果（査読有）	共	2016年12月	薬学雑誌 vol. 136:pp. 1651-1656 2016	本学で実施している基礎学力強化教育対象科目の一つである解剖生理学に関して、並行して開講している薬理学の成績に与える影響について解析を行ったところ、解剖生理学における強化教育対象学生は、薬理学においても良い影響があることが示唆された。共同研究につき本人担当部分抽出不可能。 北山友也*、籠田智美、吉川紀子、河井伸之、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、篠塚和正、中林利克
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. 有機化学 I における時間外学習の習慣付け	共	2017年9月	第2回 日本薬学教育学会大会	西村奏咲、小関稔、川崎郁勇、三木知博 これまでの解析から強化教育の有用性は示唆されたが、一方で教員側の負担の大きさが問題となっていた。そこで、よりコストパフォーマンスの優れた強化教育手法を開発することを目的とし、対象学生の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
2. プロマジンおよびクロロプロマジンに対する分子インプリントポリマーの調製と血清中のプロマジンの分析への応用	共	2017年9月	日本分析化学会 第66年会	成績推移・アンケート調査への影響について解析を行った。 西村奏咲、萩中淳 プロマジン (PZ) およびクロロプロマジン (CPZ) に対する分子インプリントポリマー (MIP _{PZ} およびMIP _{CPZ}) を多段階膨潤重合法により調製し、その保持能および分子認識能を評価した。次に、MIP _{CPZ} を前処理カラムとして用いたカラムスイッチング LC-蛍光検出により、血清中のPZの分析への応用を検討した。
3. スペクトル構造解析学の習熟度別授業の実践と評価	共	2017年3月	日本薬学会第137年会	河井伸之、川崎 郁勇、北山友也、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、三木知博 定期試験における成績上位グループでは、課題の未提出者が存在しなかった。アンケート結果から、成績上位グループのうち強化教育対象学生は、復習に力を注ぐことで理解を深めたことが明らかとなった。
4. 2016 年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎学力強化教育の運用と評価	共	2017年3月	日本薬学会第137年会	西村奏咲、川崎郁勇、稲本浄文、來海徹太郎、河井伸之、北山友也、三浦健、安井菜穂美、三木知博 過去の強化教育受講歴により学生を8グループに分類し、成績推移およびアンケート調査結果の比較を行った。確認試験と定期試験結果には強い相関が認められたが、強化教育を受けても学力が向上しなかった学生の理解度（自覚）や満足度は、その他の学生と比べて統計的に有意な差は認められなかった。
5. 自己学習時間の実態調査と成績との関係に関する調査研究	共	2017年3月	日本薬学会第137年会	北山友也、河井伸之、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、三木知博、篠塚和正 低学年時における自己学習時間の実態を把握し、より有効な学習指導を行うための根拠とすることを目的として成績との関連性を解析した結果、試験前に学習時間が増加することはどの学生でも共通であったが、中間試験時にそれまでの部分について理解し後半の授業に臨むことが成績向上に関連する可能性が示唆された。
6. 基礎学力強化教育の効果および“課題提出義務付け”の有効性の検証	共	2017年10月	第67回 日本薬学会近畿支部総会・大会	西村奏咲、川崎郁勇、來海徹太郎、三木知博 強化教育の一環として実施している課題提出義務付けの有無により、対象学生の成績や理解度（自覚）、満足度、勉強時間に有意な差は認められなかった。ただし、有意ではないが提出を義務付けた学生の方が効果判定試験の平均点が高く、アンケート結果も高評価であった。
7. 初年次生に対する基礎学力強化教育の効果測定	共	2016年8月	第1回 日本薬学教育学会大会	西村奏咲、來海徹太郎、河井伸之、北山友也、三浦健、安井菜穂美、三木知博、中林利克 強化教育により対象学生の成績が飛躍する要因の一つとして、強化教育対象者となることで自身の学力レベルに危機感を感じたこと、および少人数・双方向型の教育手法が学生のモチベーションを向上させるのに有効であったことなどがアンケート結果から推察された。
8. 生化学における初年次基礎学力強化教育の運用と評価	共	2016年8月	第1回 日本薬学教育学会大会	安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、三浦健、中林利克、三木知博 強化教育対象者のうち成績上位層では単位認定試験において大きな成績の伸びが認められた。確認テストと定期試験成績には有意な相関関係が認められたことから、学習習慣が確立され、修得できた結果が点数に反映されていることが推察された。
9. 習熟度別クラスの編成における重回帰分析を用いた新規クラス分け法の検証	共	2016年8月	第1回 日本薬学教育学会大会	三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、西村奏咲、安井菜穂美、安東由則、三木知博、中林利克 習熟度別クラスで開講されている末梢神経薬理学を履修した学生の本科目成績（2015年度）とその学生らの下級学年成績（2014年度）より成績予測式を導き、これを基にした習熟度別クラス分け法（成績予測判定法）によるクラス編成と、従来法によるクラス編成とを比較し、新たなクラス分け法の有用性を評価した。
10. 三年次生への有機合成化学領域における習熟度別少人数講義の効果	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	河井伸之、北山友也、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、中林利克 強化教育対象学生における講義後の質問回数と試験結果との間には相関が認められたことから、継続的な強化教育は学習習慣の定着と基礎学力向上に有用であることが示唆された。
11. 薬理学領域理解度に対する解剖生理学教育の影響	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	北山友也、森山賢治、籠田智美、河井伸之、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、中林利克 解剖学教育終了後に実施した生理学教育が強化教育対象学生へ与える影響について、強化教育対象科目である基礎薬理学領域の成績をアウトプットとして解析をおこなった結果、解剖学低習熟度学生の薬

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
12. 下級学年成績に基づいた成績予測式による習熟度別クラス判定法の評価	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	<p>理学の成績が改善されたことが明らかとなったことから、解剖学と生理学とのつながりを意識させる教育方法が、薬理学の理解に有用であったことが示唆された。</p> <p>三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、西村奏咲、安井菜穂美、中林利克</p> <p>2014年度学生の下級学年成績と末梢神経薬理学の成績より成績予測式を導き、これを基にした習熟度別クラス判定法（以下、成績予測判定法）によるクラス編成の有用性を評価した結果、成績予測判定法は総合的な成績判定を行うことで、より簡易で効果的に低習熟度学生を抽出できることが示唆された。</p>
13. 2015年度薬学部初年次教育（有機化学）における基礎的学力強化教育の運用と評価	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	<p>西村奏咲、来海徹太郎、河井伸之、北山友也、三浦健、安井菜穂美、中林利克</p> <p>前期は強化教育対象・後期は強化教育対象外であった学生の後期単位認定試験結果は、前期も後期も強化教育対象外であった学生とほぼ同程度であった。強化教育対象外となった後も学力を維持していたことが明らかとなり、強化教育を実施することで学習習慣の修得に繋がったことが示唆された。</p>
14. 生化学（生体成分領域）における学力強化対象者に対する教育の運用と評価	共	2016年3月	日本薬学会第136年会	<p>安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、三浦健、中林利克</p> <p>強化教育で行っている確認テストと定期試験成績には有意な相関関係が認められたことから、学習習慣が確立され、修得できた結果が点数に反映されたことが推察された。生化学（生体分子領域）における少人数の習熟度別授業は、学習習慣の確立および基礎学力向上に有用であることが示唆された。</p>
15. 解剖生理学分野における強化教育法による成績への影響	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	<p>北山友也、森山賢治、籠田智美、河井伸之、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、中林利克</p> <p>強化教育対象学生の成績を対象外学生と比較すると、下級学年関連科目の成績の差が本科目定期試験では明らかに減少しており、アンケートでは習熟度別授業に対して肯定的な意見が多数見られたことから、習熟度別による少人数制の授業形態は学習者にとって有益であり、学習習慣定着に寄与すると推察できた。</p>
16. 薬理学分野における強化教育に対する予備的評価	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	<p>三浦健、篠塚和正、河井伸之、北山友也、西村奏咲、安井菜穂美、中林利克</p> <p>当該科目における強化教育実施年と過去の試験結果を比べると、平均点・合格者数の改善が見られた。本学が実施している薬理学分野の強化教育において、毎講義の確認テストによる自己評価が学生の自習時間の増加をもたらし、学習習慣の定着やそれに引き続く知識の定着に有効であることが示唆された。</p>
17. 有機化学系科目における習熟度別講義の三年次生への運用とその評価	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	<p>河井伸之、西出喜代治、北山友也、西村奏咲、三浦健、安井菜穂美、中林利克</p> <p>一年次より継続的に学習が課せられる有機化学系科目における三年次生の習熟度別授業の効果について検証した結果、強化教育対象学生と対象外学生の平均点差が徐々に縮まってきたことから、継続的な少人数の習熟度別授業は基礎学力向上に有用な教育システムであることが示唆された。</p>
18. 薬学部初年次教育(有機化学)における習熟度別授業の効果	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	<p>西村奏咲、西出喜代治、来海徹太郎、河井伸之、北山友也、三浦健、安井菜穂美、中林利克</p> <p>習熟度別授業実施後の単位認定試験では、強化教育対象学生の平均点は、学年全体の平均点を上回った。過去の当該科目において強化教育対象学生に相当する学生の単位認定試験の成績からは、向上傾向は認められなかった。毎回の形成的評価や課題提出が強化教育対象学生の学習習慣の習得に繋がったことが示唆された。</p>
19. 生化学（代謝領域）における学力強化教育の運用と評価	共	2015年3月	日本薬学会第135年会	<p>安井菜穂美、河井伸之、北山友也、西村奏咲、三浦健、中林利克</p> <p>当該科目の強化教育実施年度と過去と同レベルの試験結果を比較すると、習熟度別授業の導入により平均得点率は上昇した。アンケートでは少人数制や確認テストに好評価が得られたことから、少人数の習熟度別授業は、学習習慣の確立および基礎学力向上に有用であることが示唆された。</p>
20. 6年制薬学部学生の模擬試験結果と国家試験合格との相関分析	共	2014年3月	日本薬学会第134年会	<p>開章宏、吉村典久、高木愛未、西村奏咲、細井信造、後藤直正</p> <p>京都薬科大学の6年制1期生および2期生に対して、4年次から実施した模擬試験成績の推移と国家試験合格との相関を比較することによって、国家試験合格の学力差が生じる時期を調べ、発表した。</p>
3. 総説				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年4月～現在	日本分析化学会 会員
2. 2017年10月14日	第67回 日本薬学会近畿支部総会・大会 座長
3. 2017年～現在	学術論文レフリー（薬学教育）
4. 2016年4月～現在	日本薬学教育学会 会員
5. 2014年4月～現在	日本薬学会